

第 50 回卒業証書授与式及び第 22 回専攻科修了証書授与式告辞

本日、ここに、鈴鹿工業高等専門学校第 50 回卒業証書授与式及び第 22 回修了証書授与式を執り行うにあたり、ご来賓並びに保護者の皆様をはじめ、多数の方々のご臨席を賜り、喜びを分かち合えますことを、心から感謝し、お礼申し上げます。

本日、晴れて鈴鹿工業高等専門学校を卒業する 201 名、専攻科を修了する 27 名の皆様、そして、温かく見守り、強く支え続けられてこられました保護者の皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。入学されてからの年月を振り返り、卒業生・修了生のみならず保護者の皆様にも万感の思いが込み上げていることと思います。

本校は、知・徳・体、三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、課外活動などに積極的に取り組むとともに、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた、学科と専攻科を縦断する複合型生産システム工学プログラムにより、大学レベルの高度な工学教育も実施してきました。その中で、楽しかったこと、つらかったこと、うれしかったこと、悔しかったことなど、色々な思いが心をよぎっていることでしょう。もっと頑張ればよかったと反省することもあるでしょう。しかし、皆さんは、無事、この卒業、修了の日を迎えられました。誇りにし、自信にしてください。ただ、ご家族の方、先生方など、周りの人々の支えにより、このよき日を迎えることができたということを決して忘れないようにしていただきたいと思えます。

さて、鈴鹿高専には養成すべき人材像が四つあります。一つ目は、生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材を養成することです。二つ目は、高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材、三つ目は、課題探究能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材、そして最後は、コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材です。キーワード的にいえば、人間性、実践性、創造性、国際性の四つです。あなた方は、実践力を伴った創造力を有する、国際的にも活躍できる、人間性豊かな人物に育ってほしいと願って教育を受けてきました。この人材像は、一生を通じ当てはまるものですので、人生の節々で折に触れて思い出していただきたいと思えます。

そして、皆さんの高専生活では、学業に加え、全力で取り組んだ課外活動や様々なイベント、そして海外研修も、キャンパスライフを豊かにしてくれたことと思えます。私は校長四年目になりましたが、昨年にも増して、夏の体育大会や文化行事、エコカーレース、秋のロボットコンテストやプログラミングコンテストなどの各種コンテスト、高専祭や各種学会発表などを通じ、皆さんの素晴らしい成長する力を確認することができました。また、鈴鹿高専のホームページのフォト広報に記載されていますように、皆さんが受賞した数多くの表彰の喜びを分かち合うこともできました。理科系、文科系、体育系などの様々な分野からの表彰でしたが、鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていることを実感できた次第です。

皆さんは、学科生、編入学生、専攻科生と様々ですが、入学後、概ね三年から七年間、学園生活を送られました。学科生が入学された 2011 年は大変な年でした。その年の 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、東北沿岸部の壊滅的な被害に落涙するとともに、福島原発の放射能汚染の恐怖におののいていた、まさにその時期に入学されました。人生のもっとも多感な年頃での体験や気持ちは今もよみがえり、入学時に誓った将来への志を思い出さ

れていることでしょう。そして、そのことをこれからも忘れないでいてほしいと思います。

皆さんは、これから就職、進学など多様な道を進まれます。皆さんがこれから大人として生きる時代は、今まで以上に社会がスピーディに変化する時代になるでしょう。そして、結果が求められる時代でもあります。しかし、それを当たり前とせず、ちょっと立ち止まり、「それでいいのか？」と批判的に考える思考が必要になります。結果も重要ですが、目的・目標を達成するために努力する「プロセス」の大切さを強調したいと思います。

プロセスを重視した取り組み方を「非帰結主義的アプローチ」といいます。たとえば、学校生活において、何としてでもいい成績を取るとか、必要単位の取得を最大の目的にするとかといった、結果を最も重視する考えが帰結主義ですが、この主義では、結果に至るプロセスは二の次になります。このような考えが高ざると不正行為が生じます。試験においてはカンニングとか、そして研究においては、データの盗用、改ざんといった問題です。

プロセス重視の考え方は、身近にわかりやすく示されています。それは、現在、高視聴率をあげているNHKの朝ドラ「あさが来た」の主題歌「365日の紙飛行機」の一節にみることができます。人生を紙飛行機にたとえ、「その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番 大切なんだ」と。私も、皆さんが、どこをどのように、こころのままに、あなたの紙飛行機で飛ぶかを期待し、楽しみにもしています。

最後に、皆さんにお伝えしたいことがあります。皆さんとともに、幾人かの教職員も新しい職場に、人生へと踏み出されます。長きにわたり教育に尽力していただいた教養教育科の出口教授、西岡教授、細野教授、生物応用化学科の生貝教授、一年間の任期で豊田高専、和歌山高専から赴任された犬塚准教授、岩本教授、そして事務サイドからサポートをいただいた藤田総務課長、上野寮務係長などの方々です。これらの方の思いもひとしおかと思えます。この場を借りまして深く感謝申し上げます。

結びにあたり、卒業、修了する皆様方が、この良き日をこれからの人生のスタートラインとして、充実した思い出深い高専生活での学びや経験を貴重な財産として、立派な人間に育ち、幸せな人生を送られることを祈念するとともに、本日の式典にご多用中にも関わらず、ご参加いただきました、ご来賓、保護者の方々に厚くお礼を申し上げ、私の挨拶とします。

平成 28 年 3 月 18 日

鈴鹿工業高等専門学校長
新 田 保 次